



# 会津医療センター ニュースレター

発行日：平成28年1月29日

〒969-3492

福島県会津若松市河東町谷沢

字前田21番地2

TEL：0242-75-2100(代表)

FAX：0242-75-2150(総務課)

E-mail：a-keiei@fmu.ac.jp

企画発行：事務局経営企画室

## コンテンツ一覧

- 年頭のご挨拶…………… 1
- 当センター診療科のご紹介…………… 2・3
- 「ほね元気外来」開設のお知らせ…………… 4
- 緩和ケア科からのお知らせ…………… 5
- クリスマスコンサート 他…………… 6
- 会津医療センターからのお知らせ…………… 6

## 年頭のご挨拶

附属病院長 <sup>すずき</sup>鈴木 <sup>けいじ</sup>啓二



新年明けましておめでとうございます。

公立大学法人福島県立医科大学会津医療センターは3回目の初春を迎えました。

この間、ご支援およびご協力を頂きました地域の皆様ならびに関係諸機関にあらためて御礼申し上げます。

当センターは「高度な先進医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、患者さんに安全で質の高い医療を提供し、新しい地域医療の創造に貢献します」との会津医療センター基本理念に基づき、高久史磨センター長（日本医学会会長）のもと、職員一同、会津の地域医療に取り組んで参りました。

昨年は公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価の認定、麻酔科学講座の新設、緩和ケア病棟の届け出、看護専門外来及びほね元気外来の新設、厚生労働省から臨床修練病院の指定を受けて海外からの医師の研修受け入れ、産学協働で医学教育の機器やシステムを開発する医学教育システム開発センターの新設、福島県革新的医療機器開発実証事業による医療機器の開発実用化、C V（中心静脈カテーテル）センターの開設等、診療・教育・研究において多くの実績を上げることができました。

当院は基本理念に則り、新しい取り組みを積極的に行っており、今年も職員一丸となって、会津全域の医療保健福祉関係の皆様との連携を密にしながら、会津の地域医療はもとより会津医療センター発の様々な試みに取り組んでいくよう一層精励努力して参ります。

引き続き皆様方のご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

### 病院機能評価ってなに？

公益財団法人日本医療機能評価機構が、第三者の立場で病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価を行い、病院の位置づけや問題点を明らかにし、病院の更なる改善活動を推進し、病院体制の一層の充実や医療の質の向上に寄与するものです。

### 当院は病院機能評価認定病院です！

当院においては、全86評価項目中、S評価（秀でている）が1項目、A評価（適切に行われている）が70項目、B評価（一定の水準に達している）が15項目として平成27年6月5日に認定を受け、会津若松市内で2番目に認定病院となりました。



日本医療機能評価機構  
認定第 JC2035 号



# 当センター診療科のご紹介

## — vol.4 糖尿病・代謝・腎臓内科 —

### ～代謝疾患について～

糖尿病・代謝・腎臓内科学講座 教授 **つかもと かずひさ**  
**塚本 和久**



### 動脈硬化性疾患、全国ワースト5！

現在の日本における死因の第一位は悪性新生物ですが、動脈硬化が大きく関与する心疾患と脳血管障害による死亡者数を合計すると、悪性新生物に肩を並べるレベルに達します。そして、福島県は全国でも動脈硬化性疾患の多い地域で、都道府県別統計では男女ともワースト5に入っています。

動脈硬化性疾患は、たとえ命が助かったとしても、生活の質（QOL）を低下させる疾患であり、未然防止が重要で、そのためには危険因子のコントロールが肝心です。そして、危険因子の中で最も重要なのが糖尿病や脂質異常症といった代謝疾患です。

### 原因は、さまざま

人間の体は、非常に精巧にできた精密機器です。食事からの糖質の流入のあるなしに関わらず、血糖値を一定レベルに維持する機能が備わっています。また体へのエネルギー供給を維持するために、食事からのエネルギー供給の有無で肝臓からの脂質分泌もダイナミックに調節されています。

この微妙で正確な調節には、細胞内外の多くの酵素やホルモン、タンパク質、サイトカインなどが関わっており、その調節機構が破たんしたときに生じるのが糖尿病や脂質異常症といった代謝疾患です。

さて、車が動かない、ということであれば、その原因は、バッテリーがあがっている場合もあるでしょうし、ガス欠になっている場合もあるでしょう。あるいは、エンジンそのものが故障していることもあるでしょう。同様に、一概に糖尿病や脂質異常症といっても、原因はさまざまです。

当科では、それぞれの代謝疾患を引き起こしている原因は何なのかを見定め、それぞれの患者さんに応じて必要な検査、あるいは場合によっては特殊検査を行い、病態に即した最適の治療を行っています。

### 毎月開催の「糖尿病教室」

当院の糖尿病・代謝・腎臓内科では毎月、糖尿病教室を開催しております。（2月の予定は右の表のとおり）予定表は毎月、会津医療センターホームページに掲載するとともに外来等に掲示しておりますので、ご確認していただければと存じます。

対象者は糖尿病患者またはそのご家族の方としていますが、糖尿病ではないけれど関心があるという方でも参加することが出来ます。事前申込みは必要なく、参加費は無料となっております。講師は、医師を始め、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士など、様々な視点から糖尿病と上手に付き合うための講演を実施しております。糖尿病に関心があるという方、お気軽にご参加ください。

### 糖尿病教室2月予定表

月 日	内 容	担 当 者
2月2日 (火)	「糖尿病とは」 場所：2階 会議室4	医 師
2月4日 (木)	「糖尿病の検査について」 場所：2階 会議室4	臨床検査技師
2月9日 (火)	「糖尿病の食事療法」 場所：2階 会議室4	管理栄養士
2月16日 (火)	「糖尿病の合併症」 場所：2階 会議室4	医 師
2月18日 (木)	「日常生活について」 場所：2階 会議室4	管 理 師
2月23日 (火)	「糖尿病の薬物療法」 場所：2階 会議室4	薬 劑 師
2月25日 (木)	「糖尿病の運動療法」 場所：2階 会議室4	理学療法士

\*定例会は、ホスターにてお知らせいたします。  
\*事務局：糖尿病・代謝・腎臓内科 TEL：0240-75-2100



## 患者さん個々に合った最適な治療法を選択

代謝疾患では、そのコントロールがよほど悪化しない限り症状はありません。しかし、放置すると、動脈硬化性疾患や糖尿病細小血管障害を生じ、生命予後、およびQOLを大きく損ないます。

検査としては一般的な臨床・生理検査に加え、インスリン（糖尿病の場合）などのホルモンやアポタンパクなどの特殊タンパク（脂質異常症の場合）などの検査、画像検査での動脈硬化進展度や脂質異常症の経過に伴う身体変化などを評価し、さらに必要な症例ではCGMS（持続血糖値モニタリングシステム）や人工膵臓を使った評価を行います。

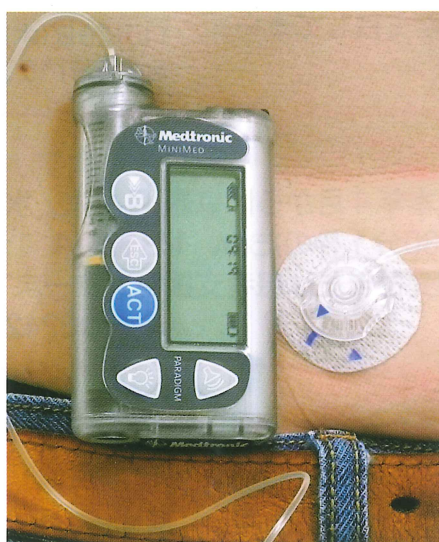
糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬のいずれも作用機序（仕組み）の異なる薬物が数多く使用できますが、上記の検査で得た結果に基づき、患者さん個々に最適な治療法を選択します。

また、1型糖尿病でインスリンポンプによる加療が必要な患者さんには、ポンプを使った治療を行います。

当然ながら、ほかの疾患に伴って生じる代謝疾患もあるため、原因となっている疾患はないのか、を内科総合的に検査を行い、ほかの疾患が見つかった場合は、その専門科に紹介します。



5分ごとに腹部皮下組織の組織間液のブドウ糖濃度を測定するCGMS



人工膵臓を使ったグルコースクランプ法による抵抗性の評価



プログラムされた注入速度でインスリンを持続皮下注射するインスリンポンプ

## 代謝疾患専門医を育成

生活習慣の変化は日本における代謝疾患の頻度を爆発的に高めており、市民への啓発活動が重要です。患者の大量増加によって、専門医だけではすべての患者さんを診ることはもはや不可能です。厚生労働省の指針のとおり、当科でも会津地域の医療機関との連携を構築し、代謝疾患の中核病院としての役割を担っています。

また、今後も代謝疾患関連の新たな治療薬、治療デバイスが多数市場に出てくることが予測されるため、その専門知識を身に付けた専門医が必須です。地域住民への啓発活動を行いながら、会津地域・福島県の代謝疾患の中核病院の一員として活躍する代謝疾患専門医を育成できることを楽しみにしています。

## 当科でのその他の主な治療

糖尿病・代謝・腎臓内科の扱う、もう一つの大きな柱が腎疾患です。当科では①糖尿病腎症や腎硬化症などについての教育入院②急性腎炎やネフローゼ症候群といった疾患に対する入院での精査と治療③維持透析や急性腎不全への緊急透析などの透析療法、といった腎疾患に対する治療に加え④炎症性腸疾患に対する顆粒球吸着療法⑤ANCA関連血管炎やエンドトキシンショックなどの際の血しょう交換を必要に応じて行い、また⑥閉鎖性動脈硬化症や巣状糸球体硬化症、家族性高コレステロール血症の症例に対するLDLアフェレーシスも可能です。



# 「ほね元気外来」開設のお知らせ

的に整  
リハ  
門ケア  
ました。  
療率の  
医療、  
に、医  
ンスタ  
動はも  
との連  
てまい



11月26日(木)「ほね元気外来」開設セレモニーで挨拶をする専門ケアチーム委員長の岩淵准教授

## 〈「ほね元気外来」の開設日〉

からは毎週 月・火・水曜日に変更予定)

のため、**1日最大4名**まで

は患者支援センターまで

(☎0242-75-2100、0242-75-2238)

## 「ほね元気外来」の受診の流れ

ほね元気外来の受診希望

受診受付後、問診(骨粗鬆症マネージャー)

骨塩定量検査

整形外科・脊椎外科 医師の診察

骨粗鬆症マネージャーからの指導

必要時、コメディカルスタッフからの指導

外来での継続支援



多職種によるカンファレンスの風景



骨塩定量検査装置



# 緩和ケア科からのお知らせ

緩和ケア科 准教授 <sup>たけしげ</sup> <sup>としゆき</sup> 竹重 俊幸



「緩和ケア、緩和医療」という言葉を聞いたことはあるけど、どんな医療なのか良く分からないという方が多いと思います。「もう治療方法がないから、緩和ケア科で見てもらいたい」とか「ほかの病院で診てもらえないので、相談に来ました。」などと言われ、とくに緩和ケア病棟は治療せずに、寝かせておくところと思われています。しかし、がんと告知され不安な患者さんたちにとって、緩和ケア・スタッフは元の主治医から人生の大切なバトンを渡されたようなものなので、患者さん・御家族を苦痛から解放し十分に満足していただけるように努めねばなりません。そのため、我々は、がんと診断された時から患者さんに寄り添い、身体的・精神的能力の維持・向上のために治療し、最後まで積極的に生きていけるように支えることを目標にしています。

会津医療センター附属病院には緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟がありますが、今回は緩和ケア病棟を紹介したいと思います。最上階の6階にあり、緩和ケア病棟専用フロアになっております。病床数は18床で、全室個室で有料室(6,480円)7床、無料室11床があります。当院の緩和ケア病棟は、病状の評価、症状の原因検索を行い、苦痛からの解放、病状の改善、不安・自信喪失からの回復を図り、早期の退院を目的にスタッフ全員で治療を実施している病棟です。

## 1. シームレスな(途切れない) ケア

継続的に世話させていただきます。

## 2. 多職種のスタッフによる治療

精神科、漢方内科・鍼灸、リハビリテーション、栄養管理など多職種で連携し治療しています。

## 3. 急性期的な対処

病態を早急に把握・評価し、退院や外出に向けて治療プランを立て実施します。

## 4. 地域連携のもとに在宅緩和ケア

希望する療養場所が自宅の場合、病状の安定化、家庭環境の改善を行うと同時に、訪問看護ステーションとの連携をとり、必要であれば訪問診療も考慮します。



元気で、明るいスタッフが心からお迎えします。



眺望が良く、広々としたデイルームでの様々な催し物





# クリスマスコンサートを開催しました



平成27年12月21日(月)18時から、会津医療センター(外来ピアノ前)にてクリスマスコンサートを開催し、入院患者さんやそのご家族をはじめ多くの方々に参加していただきました。

コンサートは、毎年恒例となっている看護師等によるハンドベル演奏から始まり、初期研修医・鍼灸研修生による合奏のほか、血液内科学講座 教授 大田 雅嗣 先生を代表とする医師等によって構成されたフルート・ヴィオラ・チェロ・ピアノの合奏を披露しました。

コンサートの最後には「NHK東日本大震災プロジェクト」のテーマソングとして使用されている「花は咲く」を会場にいらした皆様と合唱しました。



# 託児所「つくし園」クリスマス会



平成27年12月15日(火)、会津医療センター内託児所「つくし園」において、クリスマス会を開催しました。鈴木啓二附属病院長、児島由利江副病院長兼看護部長から園児たちへプレゼントがあり、園児たちは嬉しそうに、プレゼントを受け取っていました。その後、サンタさんが登場し、1年間良い子にしていたご褒美としてプレゼントがありました。

その他には、合奏を演奏したり、リズム遊び「パンダうさぎコアラ」にご両親の皆さんも参加したり、一緒に楽しく過ごしました。

今年は園児が8人と、昨年より人数も多くなったため、賑やかなクリスマス会・お楽しみ会となりました。



## 会津医療センターからのお知らせ

平成27年12月29日(火)より、夜間・休日における正面玄関の開放時間が下記のとおり変更となりました。

**平日：午後8時まで**

**休日：午前9時から午後8時まで**

なお、当該時間内は正面玄関前の受付にて、警備員が受付業務を行っておりますので、来院された際にはお声かけ下さい。

